

『未来に開かれた
教会となる』「
社会のクリスマスと
教会の主の降誕祭」

主任司祭 レナト・フィリピーニ

キリスト教徒が少ない日本ですが、クリスマスは一般的なイベントとして盛んになっています。カレンダーにも書いてありますし、様々な業界にとつて絶好の商売の時期です。「教会でもクリスマスを祝うの？」と仰天するような言葉を耳にするほど、クリスマスは社会に根差しているのです。マスコミの影響でクリスマスイズムに教会に行く人が増え、ミサに参加する一般の人もかなり多くなりました。

クリスマスシーズンには、イルミネーションが目につきますが、キラキラ輝くライトがまぶし過ぎて、しるしであるどころか、クリスマスの主人公であるキリストを、見えなくしていることが気になります。まさにキリスト拔きの社会のクリスマスです。本人拔きの誕生日パーティーではないでしょうか。

一方、カトリックではその祝いの本来の方、主イエス・キリストの誕生を祝い、しかも、12月24日夜のみならず、主の公現までの2週間を降誕節として祝います。

この祭りの精神は、贈り物です。私たちは、家族や友人同士でプレゼントを交換します。また、クリスマスの募金やチャリティーコンサートなど、大規模で社会的に行われるものもありま

す。では、この元々の精神はどこからくるのでしょうか。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」と、イエスは説いています。（マタイ7・12）この表現は、キリスト教の価値観を表しており、積極的な生き方なのです。これに基づいて、2000年もの間、全世界にいるキリスト者たちは、イエスの生きざまを実現しようとしてきました。イエスの精神を實踐して、社会、世界、そしてすべての人間に大きな貢献をしてきました。

現在、世界人口は約72億人だそうです。そのうち、キリスト教徒は約23億人、キリスト者たちが、自分の生きがいとしてイエス・キリストにならおうとしているのです。

世界にひろがる教会共同体は四つの「福音的なしるし」を通して、キリスト教的価値観を實踐し、証しています。つまり、「奉仕」「福音宣教」「典礼」そして「交わり」です。奉仕の實踐、すなわち隣人に仕えることによって、共同体は神の愛という福音のメッセージに信憑性があることを表します。また、福音宣教を通して、共同体は閉鎖的かつ自己中心的になることなく、神の国の到来を告げるイエスによつて世界に希望をもたらします。典礼は、信仰体験を祝う空間と時間です。典礼を行う時、共同体は喜びと感謝をもって神のいのちを賛美します。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、

パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」（使徒言行録2・42）とあるように、「交わり」「分かち合い」「助け合い」「和解」によつて、共生と多様性が可能であることを世界に証します。

各共同体は「福音的なしるし」の母体で、そのメンバーは、年齢や洗礼歴を問いません。地域において「福音的なしるし」を實踐する信仰共同体。

昔から、人間は星に対する憧れを持っていました。そして、星はいつも人間を魅了してきました。特に新年になると、星占いによる運勢に注目している人は少なくないことでしょう。

カトリックではクリスマスは「主の降誕祭」と言い、私たちの人生に星が輝いていることを教えてくれます。

キリストの誕生によつて、私たちに光がもたらされます。幼子は、私たちの歩みを照らし、導いてくれる人生の指針なのです。

「すべての民の光である父よ、あなたは今日、星の導きによつて御ひとり子を諸国の民に示されました。信仰の光によつて歩むわたしたちを、あなたの顔を仰ぎ見る日まで今年も導いてください。」という主のご公現の集会祈願を、新年のキリストからの願いと私達からの約束にしたいと思ひます。



「佐賀教会 鳥栖教会へ 巡礼に行つて来ました。」

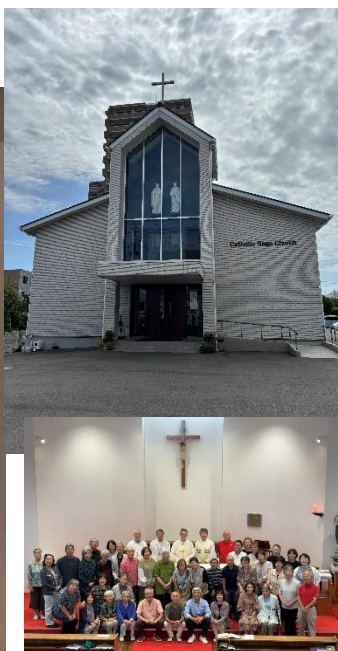
信徒会長 H・A

9月23日（火）秋分の日、レナト神父様を含み42名で、佐賀教会・鳥栖教会へ巡礼に行きました。

本年は「聖年」なので、巡礼指定教会であり、糸島教会出身の牧山神父様が司牧しておられる佐賀教会と、本年4月まで司牧して頂いた岩下神父様が司牧しておられる鳥栖教会を訪れ、祈りを捧げました。

当日は朝から雨模様でしたが、皆さんの祈りが天に届いたのか、佐賀教会に着く頃には青空もでて巡礼日和となりました。

糸島教会を8時45分に出発、バスの中では祈りと当日ミサで歌う詩編の練習を



行い、佐賀教会では巡礼指定教会での過ごし方に従いミサ前に祈りを捧げ、牧山神父様・レナト神父様共同司式のミサに与り、佐賀教会の皆さんと共に祈りを捧げることが出来ました。

ミサ後の昼食会も 牧山神父様のお話や 佐賀教会の皆さんの奉仕により楽しい分かち合いとなりました。



その後、13時佐賀教会出発、14時鳥栖教会着。教会前では、岩下神父様や信徒の皆さんが出迎えてくれました。

鳥栖教会では祈りと讃美歌を歌い、岩下神父様、役員の方より小教区のこれまでの歩みや特徴、特に日本の教会でも稀な天井から吊り下げられた聖櫃（上下可動式）やシラクサの涙の聖母の額縁等の説明を受けました。15時頃鳥栖教会を後にし、帰路につきました。17時頃糸島教会着。



本年の巡礼は昨年の反省に基づき主日（日曜日）ではない祝日に設定したこと、巡礼前に下見を行ったこと、それぞれの教会との連絡を密に取り合ったこと等でスムーズに運営が行えたように思います。参加された皆さんのご協力で、感動で実りある素晴らしい巡礼となりました。

ありがとうございました。佐賀教会、鳥栖教会の信徒の皆さん大変お世話になりました。ありがとうございました。

《敬老のお祝い》

9月13日、敬老の祝福と信徒会からの贈り物のお渡しがありました。



ご長寿のお慶びを申し上げます！

これからも、若者たちのご指導ご鞭撻、宜しくお願い致します。



《幼児洗礼式おめでとう》

7月10日

I・D・Gくん



10月16日

H・M・Eさん



お二人とご家族の為に祈り下さい。



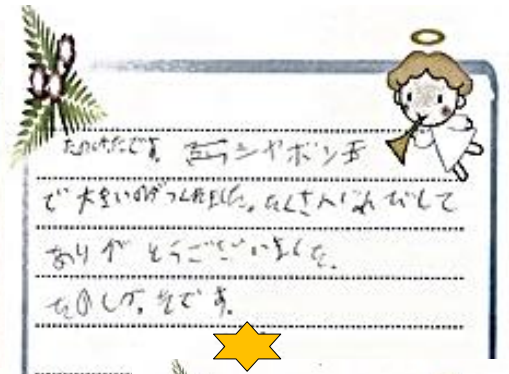
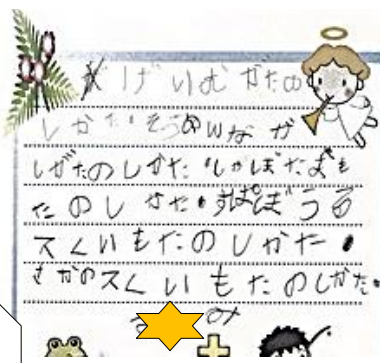
《七五三のお祝い》

11月16日七五三のお祝い日に、熊川神父様から、こどもたち皆にプレゼントが配られました。

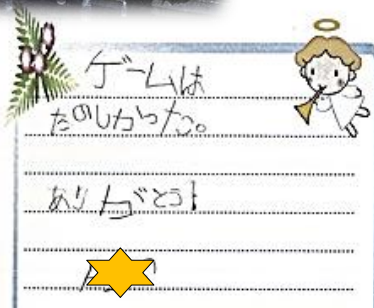
神父様の「七五三の人はいますか？」のお尋ねには恥ずかしくて数人しか手が挙がりませんでした。写真の通り、糸島教会は子どもたちが大勢ミサに与っています。

よその小教区から「羨ましい」と言われている沢山の子どもたちに神様のお恵みが豊かにありますように。





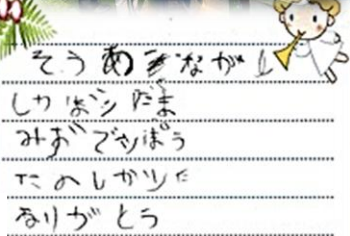
24 日



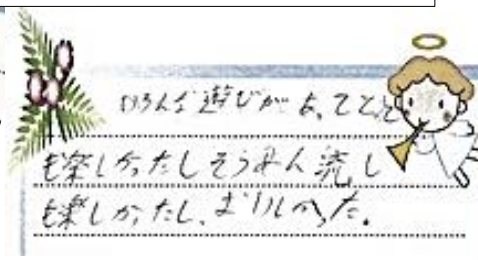
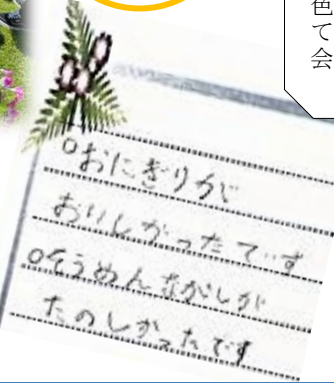
集

い

夏の子どもの集いに参加して色々なゲームや、みんなで素麺流しをして、とても楽しく過ごしました。茶山教会の方々ともすぐに仲良くなりました。神様ありがとう♡U・R



大変楽しい時間を過ごせました。糸島教会の皆様ありがとうございます。Y・A



11/16 うんどう遊びの会

がんばれ～



今日は糸島教会の皆さんとミサを受け、夏祭りをしました。ミサでは、ゆーちゃんや糸島の子と侍者をしました。いろんな事をまなびました。夏祭りでは、的あてや水でつぼう、シャボン玉、そうめん流しをしました。いろんなゲームを用意して頂いて楽しかったです。そうめんやおにぎりなどおいしかったです。
茶山教会中 10・F

茶山教会では普段できないような体験をすることができて、楽しかったです。私は小さい子供たちが大好きなんですけれど茶山には大きい子供が数人しかいないので、今日は大勢の小さな子供たちに囲まれてとても幸せでした。茶山教会と糸島教会の交流をこれからもしていきたいと思いました。
茶山・高 10・N

今日は糸島教会の皆さんと、シャボン玉やそうめん流しなどの中々することができないような事が出来ました。なかなか話すことができない糸島教会の子どもたちとたくさん話すことも出来て嬉しかったです。そうめん流しでは、そうめんだけでなく、おにぎりや煮物などたくさん準備して下さって嬉しいし、とてもおいしかったです。茶山・中 2Y・Y

しょうとうきかんを
読んであげよう
ました。そうめん流しのそ
うめんとおにぎりはおい
しかったです。またやりた
いです。

そうめんがほ
のかち。ふせうと
トマトがおいしかったです。
またやりたいです。



本日は朝から沢山の温かい歓迎を頂き、本当にありがとうございました。私たち“大きめの”子供たちの事をも考えたイベントづくりで本当に嬉しかったです。またお会いできることを楽しみにしております。
コレジオ生 ふくちゃんことN・F

本日は暖かな歓迎を頂きありがとうございました。信徒の方々の大きな優しさと、子供たちの無限の活力に圧倒されました。自分も神様の子どもとして、いつまでも元気を失わずに生活していきたいです。またお会いできることを楽しみにしています。
コレジオ生 Y・H

8月

夏

の

食事の準備・遊びの準備など、ありがとうございました。小さい子供達が沢山いて賑やかで羨ましいです。以前浄水通の子供達と畑仕事をしてたことを思い出しました。茶山ではこのようなイベントがないので、とても楽しめました。ぜひ茶山の御ミサにも来てください。ありがとうございました。茶山・O

とてもたのしかったです。
おじいちゃんにたくさんお話を
もらってありがとうございました。
おじいちゃんにうけけるお話をたくさん
聞かせてください。

糸島教会の信徒の皆様と御ミサに与ることができ、その後の楽しすぎる会も一緒にすることができて、本当に幸せな時間となりました。神様、糸島教会のみなさまに感謝でいっぱい입니다。有難うございました。お世話になりました。Y

しゅ、ばんだま
おきかたつ
そうめんながし
みだアッぽう
ぶあそべてたのしかったです。
おじいちゃんにうけけるお話を
聞かせてください。

おきかたつ
しゅ、ばんだま
そうめんながし
みだアッぽう
ぶあそべてたのしかったです。
おじいちゃんにうけけるお話を
聞かせてください。



12/7トランスパレントスター・松ぼっくりケーキ作り



2025年
10月26日



ふれあいガーデンパーティ

今年も BBQ での交流となりました。お天気も終了直後、
雨が降り始めるという恵みもありました。

例年、準備・当日・片付けと沢山のご協力と参加して
盛り上げて下さるみなさまに感謝しています。



《 典礼学習会 》

10月5日、「みこころ舎」のY・Hさんによる学習勉強会が開かれました

旅立ちの日に備えて、病者の塗油から葬儀終了後のことについて、1時間程度のお話でした。カトリック信者としての心のあり方や葬儀について、家族のあり方についてもお話頂きました。参加者は51名、内容としてもとても良く皆さんも理解しやすかったようです。

《 聖体奉仕者学習会について 》

2回の学習で、ご聖体について、ミサのあり方や意義と流れについて説明があり、そのあと質疑応答を行いました。

参加者は H、T、H、S、Kの5名です。
(敬称略)

10月26日から、聖体奉仕者として参加します。聖体奉仕者をする時は、祭壇に上がりミサを受け、ご聖体を渡します。

「『聖体授与の臨時の奉仕者』を させて頂きます。」

H・S

聖体奉仕者の募集の話が有った時、最初に思い浮かべたのはケガをして教会に行けなくなった94歳になる義母のことでした。身体の痛みは我慢できても“御ミサに与かることが出来ない”“ご聖体拝領が出来ない”という事が一番辛く悲しい事のようにでした。

最初は自分の家族のことしか考えていませんでしたが、勉強を始めると先ずは御ミサの時の奉仕が主な活動の様でしたので「私なんかが…」という思いもあり辞退しようかとも考えました。それは“初聖体

舌による拝領”の時代、“侍者は男の子だけ”しかも朝6時の御ミサに毎日来られる人という条件もあった環境で育ったからです。しかし、この“呼びかけ”に答えようと素直に思えたのも何かの御縁・お恵みだと思っています。

お陰様で神父様の承認も頂き、義母に聖体授与を行うことが出来ました。涙して喜んでくれて、一段と私たちが帰るのを心待ちにしてくれています。感謝です。

糸島教会の皆さんとも『神の家族』として結ばれています。いつも優しく見守り、祈って下さっている皆様に少しでもご恩返しになればと思っています。

ある人から「奉仕して下さるなら喜んでして下さいね!」と言われました。その時は皆さんに受け入れて貰えないのでは?という不安もあり「喜んでない出来ないわ!」と答えてしまいました。申し訳なかったです。

でも、その後直ぐにあることを思い出しました。イオンに買い物に行った時、入り口でアンケート調査をしていた女性から「笑顔で入って来て下さってありがとうございます」と声を掛けられたのです。何の事かと思ったら、仕事上避けられる人が多い中、ニコニコして近づいていた事だけで嬉しかったそうです。

お礼を言われて私も嬉しくなりました。こんな些細な事でしたが、思い出しては「今日も笑顔で頑張ろう!」と逆にエールを頂きました。『嫌なことは私が!喜んで!』高校時代の教えを改めて心に留め、お手伝いして行けたらと思っています。

また、任期は3年となっています。更新することも

来ますが、その頃にはもう少し若い方がご奉仕して下さることを祈っています。

1人では荷が重いと思いましたが、今回は5人の仲間と一緒に助け合いながら出来るので荷も軽くなります。

私も高齢者の仲間入りを致しました。若い頃からよく転んでいる私は、祭壇の上でズッコケないか?!と、とっても心配しています。

皆さん、失敗しても暖かい心で見守って下さい。初めての奉仕の後、たくさんの方が「ありがとうございます」声を掛けて下さいました。こちらこそ感謝です。これからもよろしくお願い致します。

《 死者のためのミサ 》

11月1日土曜夜、
墓地から始まる死者のためのミサが山口神父様
により、とり行われました。



「映画『ボンヘッファー』を観て」

T・I

教会でも奨められた映画「ボンヘッファー」(ヒトラーを暗殺しようとした牧師)を観に行きました。この牧師については、時代が騒然としていた1960年代頃に、プロテスタントの教会では、カール・バルトと共にナチスに抵抗した告白教会の牧師として名が知られ、その著書もよく読まれていたものです。

ナチス勢力の興隆の中で、「ヒトラー総督の帝国教会は、ヘブライ語聖書の出版と流通を直ちに禁止する」、「新しい聖書のキリストは、アドルフ・ヒトラーである」と宣言するドイツ的キリスト者に対して、「教会は聖域であり、権力場ではない」と、公然と反対の声をあげた告白教会との間の、いわゆる「ドイツ教会闘争」を、ボンヘッファーの思想と行動に焦点をあててえがいた映画でした。

沢山のことを学ばされましたが、教会でエキュメニズム(教会一致推進)委員として学んでいるわたしにとっては、特に印象に残った場面がありました。

英国ロンドンで、「ここに来たのは、ドイツの真の教会を偽物から分離し、ナチスの蛮行を知らせるためです。(世界の)教会が今声を上げなければ100年間声を失いま

す」とボンヘッファーが訴えたのに対し、国教会側は「これはドイツの問題で、国際性はない。ヒトラーは国と教会を銃なしで手にした。平和を築くのが教会の仕事だ。(民主的に政権を手にしたヒトラーと闘争するのは教会の仕事ではない)」と言います。

これに対しボンヘッファーは「悪の前で沈黙することは、それ自体が悪です。沈黙は(政権の横暴に同意する)発言であり、行動しないのも(現状を肯定する)行動です」と、教派を超えて悪に立ち向かうよう説得しようとしています。

彼は世界教会連盟(WEC)の青年活動を担当して積極的にエキュメニズムに関わり、また教派を超えた学生たちと黙想と議論を重ねますが、このサークルから教会闘争における協力者と教会一致運動に加わる代表者たちが生まれます。

このようなエキュメニズムの仲間たちの資金援助を受けながら、映画の後半にあるように、

スイス国境で警備兵にスーツケース一杯の札束を賄賂として渡して、7名のユダヤ人の逃走を助けたりできたのではないかと思います。国を超え教派を超えた、キリスト教の一致と協力が、あの厳しい時代実際に起こっていたことに驚かされました。彼がいよいよ死刑の判決を受けて、絞首台にあがる直前、判決理由の一つに、「資金洗浄」というような言葉があつて、最初は?と思いましたが、これは国や教派を超えて寄せられた援助

を、外国からの不法な寄付金とナチスがとらえていたからではないかと思いました。

当時カトリックでは、ピオ11世教皇によりエキュメニズム活動は禁じられていたので、ドイツ告白教会との連帯はなく、幼時に侍者をしていたカトリックであるヒトラーのユダヤ人虐殺についても、一部その避難に協力したとは言え、公然と否をとねえることはありませんでした。

1960年代になって第二バチカン公会議が開かれ「エキュメニズムに関する教令」が発せられ、初めて教会一致、諸宗教との対話にカトリックも関わっていくことになりました。

《プレゼピオの始まり》



1223年、アッシジの聖フランシスコが初めてキリスト降誕の場面を再現したと言われています。当時は文字の読み書きができない人々が多かったので、わかり易く伝える為に飾られたと言われています。